

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Loligo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 1歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～6月)、九州～東北の沿岸各地
夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層
索餌期・索餌場: 外套背長50mmまでは主に小型の浮遊性甲殻類、成長とともにより大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
食性:
捕食者: 不明

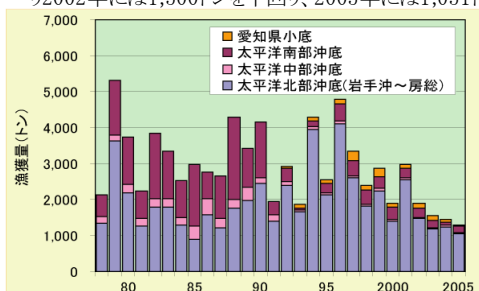


漁業の特徴

太平洋側では北海道南部～本州、四国及び九州沿岸に広く分布し、主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総)では1そうびきオッターロール沖合底びき網(沖底)、太平洋中部海域では1そうびき沖底及び小型底びき網(小底)、太平洋南部海域では主に2そうびき沖底により漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は、1970年代後半～1980年代後半に2,000～5,000トン台で大きな年変動を示した。1990年代に入り太平洋中部と南部の合計漁獲量は1,000トン以下に急減したが、北部では1,500～4,000トンで増加傾向となった。1997年以降、中部と南部では合計200～700トンで減少傾向が続く回復の兆しは見られない。北部でも減少傾向が顕著となり2002年には1,500トンを下回り、2005年には1,051トンとなった。

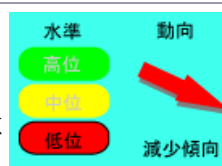


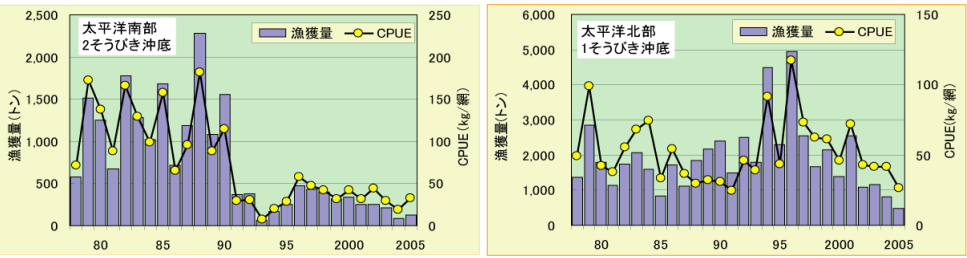
資源評価法

沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく太平洋北部(岩手沖～房総)、中部(伊豆沖～熊野灘)、南部(紀州沖～薩南海域)の漁場別漁獲統計及び愛知県的小型底びき網漁業漁獲統計を解析し、資源評価を行った。太平洋北部1そうびきオッターロール沖底及び太平洋南部2そうびき沖底による漁獲量およびCPUE(ヤリイカの漁獲があった有効ひき網1回当たりの漁獲量)の過去28年間の推移を求めた。

資源状態

太平洋南部2そうびき沖底のCPUEは、1978～1990年は比較的高い水準で年変動を繰り返していたが、1991年以降急激に減少して1993年に最低となった後、1997年以降は一貫して低水準にある。このため南部海域の資源水準は依然として低位で資源状態は良くないと判断される。太平洋北部1そうびきオッターロール沖底のCPUEは、1970年代後半～1980年代後半に増減を繰り返しながら減少した後、1990年代に入ると増加に転じて1996年にピークを示した。しかし、2002年以降は減少傾向が顕著となり、北部海域の資源も低水準にあることから、資源状態は良くないと判断される。これらのことから、本系群は全体としての資源水準は低位、動向は減少傾向とした。





管理方策

資源水準は低位で、動向は減少傾向にあると考えられるため、漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかけるとともに、1990年以前の資源水準(中・南部海域合計で年間1,000トン以上、北部海域で年間2,000トン以上、全海域合計で3,000トン以上の持続的漁獲が可能な資源水準)まで回復させることを管理目標とした。ABCの算定にあたっては過去3年間の漁獲量の平均値の8割をABClimitとし、それに安全率0.8を乗じてABCtargetを算出した。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,100トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCtarget	900トン	0.8・0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 南部の漁獲量とCPUEは、1978～1990年まで比較的高い水準であったが、急減して1993年に最低値を示し、1997年以降も減少傾向
- 北部の漁獲量とCPUEは、1996年に最高値を示したが、2002年以降減少傾向が顕著になった
- 資源水準は低位で資源状態は良くない

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止め
- 管理目標は1990年以前の資源水準(全海域合計で年間3,000トン以上の持続的漁獲が可能な資源水準)までの回復
- 産卵期直前および産卵期の産卵群の獲り控えが資源回復のために必要
- 漁獲量の年変動が大きく、資源変動と環境条件の関係の解明が必要

資源評価は毎年更新されます。